

このコーナーでは、皆さんからの「こころ和む話題」をお待ちしています。

【投稿について】

- ◆字数 200 文字以内（文章は、必要に応じて添削する場合があります）
- ◆住所・氏名・年齢・性別・電話番号・ペンネーム（記入がない場合イニシャルで掲載します）を記入の上、市広報係までご投稿ください
- ◆投稿は、はがき・封書・メールまたは直接広報係へ
- ◆締切は、毎月 10 日
- ※営利目的や個人、団体を批判・中傷するような内容は掲載できません。
- ※紙面の都合上、掲載できないこともあります。

【投稿・問い合わせ先】

〒895-2511
 伊佐市大口里1888番地
 市総務課広報係(大口庁舎)
 「和みのひろば」係
 ☎1311
 ①1116・1117
 ✉koho@city.isa.le.jp



義父が育てたカボチャを初出荷しました。「嫁として手伝わねば」と気合十分、仕事の休みに手伝ったのですがとても大変でした。家族の食事の後片づけだけでもため息つづくのに、カボチャの受け皿とやらを何百枚洗ったでしょう。夜の焼肉に続くときさなる気合で頑張りました。腰は痛かったけど、作業のあとのビールは美味しかったです。

（羽月 えびす顔 35歳）

十曾に子どもの森ができた。ピザ窯やかまど、五右衛門風呂があって、すこぶる人気だ。自然の原体験とまではいかないが、自分達で火をおこし、昔ながらの生活の有様を学ぶことができる。今、世間では原発事故問題で喧喧諤諤。一昔前は親子電球の下で一家全員が生活していたことを思えば豊かになったものだ。便利になればなるほど、人間は生きる知恵を失っていく。伊佐

の子ども達は不便を楽しみ克服し得る大人に育ってほしいものだ。

（羽月 よこてん 47歳）

初めての選挙で一つ大人になった気がする。二十年間、悲しみや苦しみ、病気にもなりましたが、少しずつ元気になっていきます。いつもかわいがってくれている祖母と投票会場へ行き受付し用紙に名前を書き投票箱へ入れた時、心臓が「どきどき」、感動の投票でした。帰り道、飾ってあった大きなかぼちゃに祖母がビックリすると、「よかったですらどうぞ」の声。投票して嬉しくかぼちゃまでいただいた、本当にありがとうございました。

（本城 太良姫の孫姫 21歳）

孫姫さん、投票できるのは大切な権利ですからいい経験をされましたね。かぼちゃはどんな料理になったんだろう。



編集後記

「和みのひろば」にあるカボチャの話に大きくうなづいてしまいます。私の父も今年はじめてカボチャを出荷しました。こそこそ小菜園で食べる分だけ野菜を作っていたのに、突然畑を借りて「おいが、すったって」と反対を押し切り始めてしまった。孫でも見に行くように毎日畑に通い、苗の成長ぶりを話す父をみて、人生の折り返しで新しい目標をもってくれたことを嬉しく思っていると...来ました！出荷の準備。噂には聞いていたがこれほど大変とは。大切に育てた「実」はわが子以上に大切に扱われ箱詰めされました。カボチャは伊佐の特産品の一つですが、ただの一つではなく全国に知られるブランドにするため皆さん努力されています。昨年の「カボチャ振興会」で県外の青果市場担当者が言った「一人のごまかしが全体の信用を落としてしまう」という厳しい言葉。誠実な仕事の一つのブランドを作り、それが広く「〇〇の伊佐市ね」と言われるようになるはず。〇〇にたくさん詰め込んでいきましょう！



人口のうごき
 (住民基本台帳から)

H24.7.1 現在 (前月比)

総人口	29,248人	(- 39)
男	13,537人	(- 9)
女	15,711人	(- 30)
世帯数	14,204世帯	(- 17)